

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	地域施設の計画 Regional Facilities Planning						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年次後期		
必修・選択の別	選択必修科目(建築工学コース) 選択必修科目(建築コース) 選択科目(デザインコース)						
担当者	井原 徹 Tohru IHARA						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築計画の方法とプロセス、およびその対象と各種施設タイプを理解できる(A6,B4)</li> <li>・各種施設タイプにおける独自および共通の計画理念と計画手法を理解できる(A6,B4)</li> <li>・生活・社会・経済・技術・芸術など様々な条件と建築計画の関係を理解できる(A6,B4)</li> <li>・建築空間の具体化の指針となる概念(モデル)について理解できる(A6,B4)</li> </ul>						
日程と内容	<p>第1回：導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価の方法／交流施設の類型</p> <p>第2回：交流・集会施設：コミュニティセンター・公民館の体系、全体計画と構成要素</p> <p>第3回：事務所(1)：種類、空間構成(レントラブル比、コアタイプ)、全体計画</p> <p>第4回：事務所(2)：基準階の計画(オフィスレイアウト)</p> <p>第5回：事務所(3)：基準階コア内の計画、特殊階の計画、駐車場の計画</p> <p>第6回：福祉施設(1)：高齢者施設の体系、高齢者施設の計画、ユニットケア</p> <p>第7回：福祉施設(2)：障害者施設の計画、グループ居住、ユニバーサルデザイン</p> <p>第8回：福祉施設(3)：幼稚園・保育所の計画、ほふく室と遊戯室及びその他の諸室</p> <p>第9回：教育施設(1)：学校建築の変遷と計画課題、学級教室とオープンスペースの変遷</p> <p>第10回：教育施設(2)：配置計画とはきかえ方式、運営方式と教室の計画、管理諸室・運動場</p> <p>第11回：博物館・美術館(1)：部門構成と全体計画、展示空間の計画</p> <p>第12回：博物館・美術館(2)：収蔵空間の計画、アトリエ及び管理諸室</p> <p>第13回：劇場・ホール(1)：分類とステージ形式、部門構成、全体計画、舞台の計画</p> <p>第14回：劇場・ホール(2)：客席の計画、オープンステージ、舞台裏の計画</p> <p>第15回：これまでの授業の総括、定期試験に向けた総合演習と解説 定期試験(試験範囲は第1回から第14回までの授業すべてとする。)</p>						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	15%					
	演習	15%	計				100%
授業到達目標の達成度	<p>建築計画の基本事項を理解し各種施設のゾーニングなどの特性を理解出来た(90%)</p> <p>各種施設タイプにおける計画理念が近年少しづつ変化している状況を事例的に案内し理解することが出来た(90%)</p> <p>生活・社会・経済・技術・芸術など様々な条件と建築計画の関係を概論として解説した(90%)</p> <p>建築空間の具体化の指針となる概念(モデル)について理解できる(A6,B4)</p>						
反省点	近年、都市部を中心に過疎化等が発生しており、旧来の計画学のみでは、コノ減少を説明出来ない状態になってきている。これらの最新状況ならびに最新の計画的考え型を例示説明する時間が無かった。						
来年度の計画	各種建築物も次第に多様化しており、各種建築の枠にとどまらない施設が発生していることを踏まえ最新の事例を紹介しながら学生の興味を持ってもらう授業を進めたい。なお、毎回の復習と次回の予習を徹底させるために、小演習を充実させたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	毎回の演習、を出来るだけ早く返却するようにしたい。また、次年度は新たに教科書を指定し、予習が出来るようにするので積極的に学習してほしい。						
履修登録者数	67名	定期試験 受験者数	63名	合格者数	62名	合格率	98%